

組織目標評価報告書（令和7年度）

部局名：		学域名：		部局長名：	
大学院保健学研究科・医学部保健学科		保健学域		廣畑 聡	
目 標		目標に対する達成状況(成果)及び新たに生じた課題等			
①教育領域		関連する 中期計画の番号	教育領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
課題: 学部入試倍率 ・新入生アンケートなど多様なステークホルダーの意見を踏まえながら入試改革を継続する。一般型選抜では2.0倍以上の出願者を実現する。		(2-2)	・学部入試倍率は、総合型選抜で4.67倍、前期試験入試で2.45倍となり、目標を連続して上回った。さらに、看護学専攻の入試区分別(文系・理系)および、検査技術科学専攻の入試科目別(数学または英語)の出現状況など、受験生の志願動向の詳細な解析を継続して学部、研究科の入試戦略に活用している。		
課題: 国家試験合格率の向上 ・分析シートを用いて組織的に学生教育の質向上に取り組み、看護師100%、診療放射線技師90%、臨床検査技師95%以上の合格率を実現し、内部質保証制度を構築する。		(3-1)	・国家試験合格率(新卒)は、看護100%(連続)、放射線92%(昨年に比べて10%UP)、検査100%(連続)と目標値を上回ることができた。国家試験合格という客観的なアウトカムを達成する教育ができた。		
課題: 大学院の定員管理 ・計画的に大学院説明会を実施しつつ海外留学生を確保するなど、入試委員会が戦略的に機能して大学院博士後期課程の定員充足100%と定員管理を実現する。		(4-1)	・大学院説明会や大学院生獲得のためのセミナーを開催した結果、博士後期課程においては10月入学を含めて定員充足100%と目標を達成できた。今後も留学生などの獲得へ向けて海外大学との連携を深めていく。		
課題: ソーシャルインパクト事業への対応(多文化共修プログラム) ・海外派遣学生が多文化を共修する学部独自のプログラムを設定し、インドネシア、韓国、台湾などの提携大学に学部生・大学院生を合わせて70人以上を派遣する。またダブルディグリーを目指した議論を進める。		(7-1)	・学部独自のプログラムを深化させた結果、多文化共修プログラムにおける海外派遣学生は、学部66名、大学院11名となり合計77名で目標を10%上回った(前年度比22%増)。ダブルディグリーに関する議論を台湾長庚大学と進めている。		
②研究領域		関連する 中期計画の番号	研究領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
課題: 共同研究費および受託研究費受入増に向けた取組 ・外部企業と連携し、保健学研究科で初めてとなる寄付講座の設置を実現する。受入額として本年度43,588千円以上の獲得を実現する。		(1-1)(8-2)	・研究科として初となる寄付講座の設置を実現して、助教(特任)1名が加わった。外部資金の受入額は、共同研究受入額が7,265千円、受託事業受入額が9,272千円となり、合計で16,537千円(前年度比で538千円増)であった。		
課題: 科研費獲得向上にむけた取組 ・科研費新規採択率35%を目指す。科研に新規または継続で採択(採択件数/専任教員数≥75%)されて、外部資金を獲得できるように部局独自の添削事業や大型助成公募案内などの支援をおこなう。		(9-2)	・部局独自の添削事業など、科研費施策を継続した結果、科研費の申請率は93.3%となった。このうち新規採択率は27.6%であり、科研費獲得率は採択教員の転出なども含めた結果64%となった。		
課題: Q1ジャーナル掲載数 ・Q1ジャーナル掲載数1.8%増(対前年度比)を目指し、部局独自の取組を加速させる。全学のAPC支援を積極的に活用しつつ部局独自の英文校正支援や投稿料支援をおこなう。		(8-1)	・Q1ジャーナル掲載数は33件(対前年度比32%増)と大幅に増加した。全学のAPC支援に加えて部局独自のQ1ジャーナル推進支援策を行った結果と考えている。		
＜研究科の系としての目標・取組＞					
③社会貢献(診療を含む)領域		関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
課題: 地域との共創 ・地域課題へ取り組む保健学科を実現するため吉備中央町において、保健学科学生および教員のフィールドワークを昨年よりも増やす。またそれ以外にも新たな複数の取組について関係者との協議を実施する。		(1-1)	・R7年度も引き続きJ-PEAKSおよび吉備中央町のデジタル田園健康特区事業への学生主体の取組を実施した。学生の関連した吉備中央町での活動は計5回と増加した。1月には吉備中央町で開催されたデジタル田園健康特区フォーラムにおいてポスター発表を行い、内閣府地方創生推進事務局審議官に保健学科の学生活動について説明を行った。		
課題: リカレント教育の推進 ・地域の病院で働く診療放射線技師らを対象としたリカレント教育プログラムを新たに実施して、3名の受講者を獲得する。他にも保健学科の特色を異化した昨年度を超える17回の公開講座を開催し、地域住民とのつながりを深め、認知度をより高める。講座参加者をステークホルダーと位置づけ、実施するすべてのプログラムで参加者アンケートを実施し、今後の発展・改善の参考とする。		(6-1)	・公開講座は、看護分野6件、放射線分野5件の合計11件を開催した。参加者アンケートの結果では高い満足度を得ており、次年度はさらに件数を増やす計画である。診療放射線技師らを対象としたリカレント教育プログラムは目標の3名に対して12名の受講者であり、目標を大きく超えた。		
課題: 同窓会との関係強化 ・岡山大学ホームカミングデーでの交流を実施し、強力な卒業生ネットワークを活用した地域と連携した教育の場を持続可能なものにするために、あらたに同窓会基金を設立する。		(14-1)	・同窓会との連携を強化するために、ホームカミングデーでの活動を継続事業として実施しており、同窓会との関係が可視化されている。さらに、「岡山大学医学部保健学科みらい基金」を設立して、多くのステークホルダーから支援を受けることができた。		
④管理運営領域		関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標の達成状況及び新たに生じた課題等		
課題: ダイバーシティの推進 ・優秀な女性教員の上位採用を積極的に進めて准教授への登用を目指すとともに、女性教員採用割合を30%とする。		(11-1)	・優秀な女性教員の上位登用制度によって、講師1名が准教授に昇任した。保健学域におけるR7/4/2-R8/4/1の期間における女性教員採用割合は4名中3名(75%)であった。		
課題: 若手教員割合 ・40歳未満の若手教員を積極的に登用して25%以上を目指す。		(9-2)	・新規採用職が准教授など40歳超が多かったため、R8/4/1における若手教員割合は17.4%であった。		

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。